

2023年1月1日から2023年12月31日の期間に当院で初めて「がん」と診断された方へ

【研究課題名】

DPC制度下でのICD-11導入における悪性新生物の項に関する研究について

【研究責任者】

医療情報管理室 診療情報管理士 山口千春

【本研究の意義と目的】

現在、病名や手術の有無等により会計が枝分かれするDPCという制度が導入されています。病名には、「疾病及び関連保健問題の国際統計分類：International Statistical Classification of Diseases and Related Health Problems（以下「ICD」と略）」というアルファベットと数字でコード化され、世界中で統一された分類を使用しています。

医学の進歩に伴い、概ね10年に一度、改訂されています。現在は、第10版（ICD-10）が使用されていますが、約30年ぶりに大改訂が行われ、第11版（ICD-11）が発行されました。ICD-11を使用する場合、今までのDPC制度で問題はないか、実際のデータを使って検証します。

本研究は、ICD-11導入後のDPC制度について、討議する基礎資料となると考えます。

【研究の対象】

がん患者さんで、2023年1月1日から12月31日の期間に当院で初めて「がん」と診断された方（他施設で診断された後、上記期間に初めて受診した方を含みます）

【研究の方法】

対象症例：入院治療を1回以上実施しており、かつ「医療資源を最も投入した病名」ががん登録対象病名である症例。

除外症例：入院病棟が緩和病棟のみの症例。

方法：使用するデータは、院内がん登録2023年症例と2023年1月から2024年12月のDPCデータ。全対象症例に対して退院時点のICD-10とICD-11のコードを付与し、有意差の有無を検証する。有意差検定はカイ二乗検定またはFischerの正確確率検定を使用し、 p 値が0.05未満の場合に有意差ありとみなす。分析にあたっては、ExcelとSPSSを使用する。

【研究期間】

倫理審査承認日から 2027 年 3 月 31 日

【個人情報の管理】

千葉医療センターにおいて管理され、統計作成・分析が行われます。二重扉で施錠管理されており、昼間は入退室記録により、夜間休日は監視カメラにより、24 時間入退室が管理されています。使用するパソコンは 2 つのパスワードを必要とし、離席時にはその都度、ログアウトをします。パスワードは 4 ヶ月ごとに変更し、一度使用したパスワードの使いまわしは行っていません。

【研究に用いる情報】

院内がん登録データから個人情報を削除した情報（がんの部位、がんの組織の形、診断日、診断した施設等）

DPC データから個人情報を削除した情報（入院期間、手術の術式等）

【お問い合わせ先】

本研究に関するご質問等がありましたら下記連絡先までお問い合わせください。

ご希望があれば、知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書や関連資料を閲覧することができますのでお申し出ください。

〒260-8606

千葉市中央区椿森 4 丁目 1 番 2 号

独立行政法人 国立病院機構 千葉医療センター

医療情報管理室 診療情報管理士 山口 千春

電話：043-251-5311（内線 2886）